

① 5つのたんけんたい

身近な緑や樹木とふれあう活動を通して感性を育てる

活動 種目	活動状況・学習内容
森 林 体 験 学 習	<p>学習単元名 “5つのたんけんたい” 教科 生活科 第2学年 学習のねらい</p> <p>低学年では、子どもたちの五感を鍛えふしぎを育てる活動が重要であるとする。そこで5つのたんけんたい（ありんこたんけんたい(視覚)、ききこたんけんたい(聴覚)、くんくんたんけんたい(嗅覚)、すりすりたんけんたい、たべものわくわくたんけんたい(給食時))になって、五感を使う基礎を養う。</p> <p>学習期間 26年9月～11月 総時間数 15時間 学習過程 (11月19日(水)) “たからの森校庭マップをつくろう” 2学年授業より</p> <p>1.今日のたんけんを知る</p> <div data-bbox="459 683 1082 719" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>すりすりたんけんたいになって、たからものを見つけよう</p> </div> <p>今日は校庭にある松の木をたんけんすることを知らせる。</p> <p>2.たんけんをする</p> <p>2年生が2人組のペアになり、めかくしをしたまま木の手触りを感じる。 五感ものさしを持って2段階（くわしくとらえる）までたんけんができるように事前指導を行う。</p> <p>3.見つけたおたからについて話し合う</p> <p>(1) 自分のたからものを決める</p> <p>松の木をたんけんした後、教室にもどり、松の木をたんけんしたことを、各自ワークシートにまとめ、自分の気づきを整理する。</p> <p>書きにくい子どもには質問を行い、言葉を導くことで、自分の“おたから”をはっきりさせるヒントを与える。</p> <p>(2) 考えを出す</p> <p>自分が“すりすりたんけん”で見つけた“おたから”をホワイトボードに一つ書き黒板に貼る。そうすることで、一人ひとりの考えを視覚化してクラス全員にお互いの考えや感じたことがわかるようにする。</p> <p>(3) たからものについて自由に話し合う</p> <p>一人ひとりが自分の見つけたたからものについて発表することで、お互いのみつけたものを把握する。次に発表に対して、質問や良い点を話したり聞いたりすることで話し合いを深める。</p> <p>良いところを汎用する際には「わけは～です。」と理由づけて発表ができるように、カードを使い意識づけを行う。</p> <p>4.ふりかえる</p> <p>本時の感想を発表させる。教師が今日の活動の良い点や課題について伝え、次時への見通しが持てるようにする。</p> <p>例えて言えたり、比べて言えたりした時は、教師が価値を認めほめる。</p> <div data-bbox="1102 770 1393 983" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1102 1016 1393 1229" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1102 1285 1393 1498" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1102 1532 1393 1747" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1102 1803 1393 2016" data-label="Image"> </div>

② 水でつながる学習

森の子どもと海の子どもが水でつながりお互いに学び合う

活動 種目	活動状況・学習内容
森 林 体 験 学 習	<p>学習单元名“水でつながる学習” 教科 総合的な学習の時間 第4学年 学習のねらい</p> <p>吉井川水系でつながる上流域の西栗倉小学校と、下流域の小串小学校の4年生同士が実際に行き来して交流し水の学習を通してお互いを理解し、自分たちの地域や暮らしを振り返る。</p> <p>学習期間 26年4月～27年2月</p> <p>活動の過程</p> <p>1. 水でつながる学習の経緯</p> <p>若杉天然林から流れだす水が吉野川、吉井川とつながり最後は瀬戸内海につながっている。その川の近くにある小学校に、いっしょに「水でつながる学習」をしようと、平成24年度の4年生が手紙を出したことがきっかけになり、瀬戸内海に面した小串小学校との交流が始まった。</p> <p>2. 西栗倉村での森林体験活動</p> <p>毎年、小串小学校の中学年が西栗倉を訪ねてきてくれる。村の北部にある若杉天然林やスギ・ヒノキの人工林で森林体験学習を行う。</p> <p>26年度は、天然林から流れ出る沢を歩いたり、タタラ跡を見学したり、スギ・ヒノキの人工林で両者の違いについて実際に木に触れながら学習したりした。</p> <p>3. 小串小を訪問 アマモを育てる取組を学習</p> <p>秋には西栗倉小学校の4年生が小串小を訪問した。これまで小串小が取り組んできた、海草である“アマモ”を育て海に返す取り組みに参加させてもらった。</p> <p>“アマモ”は海水をきれいにし、しかも魚に住処を提供する小串の海にはなくてはならないものだ。ビンの中に砂と海水を入れアマモの種を植える。冬、暗く寒いところで育て春に発芽したものを海に植えなおす。</p> <p>4. 手紙やメールで交流</p> <p>日ごろのそれぞれの地域で学習していることを、手紙やメールでやり取りして交流している。</p> <p>これまで、西栗倉小学校からは、中学年が取り組んできた“ふるさとのおくりもの新聞”や“森のおくりものポスター”などを送った。小串小からは、小串の海でとれる魚図鑑などが送られてきた。</p> <p>水でつながる森の子どもたちと海の子どもたちが交流することでお互いに大切なことを学びあっている。</p>



③ 百年の森林公園づくり

子どもが森林を中心にした未来の村をデザインする

活動 種目	活動状況・学習内容
森 林 体 験 学 習	<p>学習单元名 “百年の森林公園づくり” 教科 総合的な学習の時間 第5学年 学習のねらい</p> <p>西栗倉村の村長さんの発案による“百年の森林公園づくり”に子どもたちも参画して、公園候補地の現地調査、全校のアンケート調査を行い情報収集する。それらを元に公園づくりの課題を設定、分析、報告書づくりを通して表現しまとめる。活動を通して子どもたちの探究する力を育てることがねらいである。</p> <p>学習期間 h26 4月～ h27 1月 総時間数 35時間</p> <p>1. 村長さんの話を聞く 新学期になって村長が教室を訪問、 「西栗倉村は小さな村だが、何か日本の役に立つ村になろう。それがこれからも村があり続ける理由になる。」「西栗倉村自慢のスギやヒノキの“百年の森林”を日本の大勢の人に知ってもらおう。そこに行けば遊んだり学習したりできる、そんな“百年の森林”の公園を、子どもと大人が一緒になって考え、つくっていこう」子どもたちは大賛成した。</p> <p>2. 現地調査を行う (1) 村長さんおすすめの森の調査 このような提案を受け、公園づくりの取組みを5年生が始めた。さっそく現地調査に入る。“村長さんお薦めの森林”はこれまで村が大事に育ててきた森林だ。「森林の学習には向いている。」「斜面が急で、子どもや高齢者が歩くのは大変だ。」このような分析を行った。</p> <p>(2) 自分たちお気に入りの森の調査 “自分たちがお気に入りの森林”にも行ってみた。「沢があつて、沢歩きができる。」「地面が平らで歩きやすい」「天然林にも近い」このような良い点があることがわかった。</p> <p>(3) 幼稚園を連れて沢たんけん “自分たちがお気に入りの森林”に幼稚園の子どもたちを連れて行った。沢に幼稚園の子どもたちが入ることができるか。また、森の中を歩くことができるか、実際に一緒にあそぶことで確かめた。 結果は小さい子どもでも十分に楽しめることがわかった。</p> <p>3. 全校アンケート調査 自分たちの思いだけでなく他の人たちの考えを知りたくて、“公園作り全校アンケート調査”を行った。 その結果、森での活動で一番楽しいことは「沢あそび」だということがわかった。そして「たんけんのできる森」が一番人気だということもわかった。</p> <div data-bbox="1091 696 1390 920" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1086 1003 1390 1232" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1086 1270 1398 1496" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1086 1529 1398 1756" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1086 1783 1398 2009" data-label="Image"> </div>

4. 課題の整理

情報を収集して公園作りの課題を整理した

- 課題1 公園をつくる目的をまとめよう
- 課題2 西粟倉にぴったりの公園とは？
- 課題3 遊具はあるか？
- 課題4 公園をどこにつくるか？

5. 課題に沿って情報の整理分析

子どもたちが一番悩み考えたのは、公園をどこにつくるかだ。学習の森としては、村長さんおすすめの森、でも、そのほかにいろいろ考えると自分たちのお気に入りの森です。どちらにすればよいか迷った。

6. 目的を見直す

そんな時に村全体を“百年の森林公園”にする。というアイデアに出会った。「どこに作るか場所の問題ではなかった。」「村の人のことを考えるのが足りなかった。」「目的がきちんとしていない公園作りなんて無理だと気づいた。」

そこで、公園作りの目的を徹底的に見直した。

7. 新たな目的に沿って未来の村をデザイン

新たな目的に沿ってどんな公園の村にしたいか、考えを出し合っ
て絵にまとめ、未来の村をデザインした。“百年の森林”を知ってもらうための“百年の森林オリンピック”、村でできたものを食べてもらう“ふるさと元気食堂”、自分たちにもできる“西粟倉クリーン作戦”など、7項目にまとめた。

8. “百年の森林公園の村”を村の幹部に提案

この百年の森林公園の村づくりのアイデアを持って、村長さんを訪問した。役場の幹部の方々も参加くださり、子どもたちの提案を熱心に聞入った。

9. 今後の課題

これからしなければいけないことを話し合う。

- ・公園の村づくりのアイデアをもっと良いものにする。
- ・村の人に公園の村づくりを訴え続ける。
- ・自分たちにできることを実行する。
- ・後輩に引き継ぐ。

10. 自分たちにできることを実行する (h27年度の取り組み)

自分たちにできることとして、西粟倉クリーン作戦を実行した。クリーン作戦を呼びかけるチラシやポスターをつくり、村の施設に置いてもらい広報した。森の活動に出かける際に、ごみ拾いを行った。また7月には、保護者とともに村の宿泊施設を中心に清掃活動を行った。今後も自分たちにできることに取り組みながら、村の人々に百年の森林公園の村づくりを粘り強く訴えていく。



④ ふるさと元気グッズづくり

間伐材を使ったグッズの企画・製造・流通を総合的にプロデュースする

活動種目	活動状況・学習内容
<p>森林体験学習</p>	<p>学習単元名 “ふるさと元気グッズづくり” 教科 総合的な学習の時間 第6学年 学習のねらい 間伐体験 → グッズ企画 → グッズ製作 → グッズ配布 (あいさつタッチの旅) まで、西栗倉村の間伐材を活用したものづくりの現場に学び、ものづくりを総合的に体験する中で、ふるさととともにより良く生きる知恵を出し具体化して行く。</p> <p>学習期間 h26 4月 ~h26 12月 授業時数 25時間 学習過程</p> <p>1.グッズづくりオリエンテーション 西栗倉小学校のふるさと元気学習の高学年のテーマは“ふるさとづくり”である。ふるさとと共により良く生きる知恵を出し行動していく。6年生は先輩から“ふるさと元気グッズ”づくりを通して村を元気にしていく活動を引き継いでいる。</p> <p>2.間伐作業見学 元気グッズをつくるために必要な材料の間伐材がどのようにして生産されているか、その現場を訪ねた。</p> <p>西栗倉村では、スギやヒノキの人工林である“百年の森林”で大型林業機械を使って間伐している。このような方法で間伐すれば、人が手作業で行うより、はるかに効率が良いことがわかる。</p> <p>3.間伐材を活用した村の製作現場を訪問 間伐材を使って実際に木工製品をつくっている、西栗倉村の製作現場を訪ねた。</p> <p>間伐材がどのような工程を経て板材になり、製品になるかその過程を詳しく教わった。また、製品をつくるための工夫や苦勞を聞いた。自信と誇りを持って仕事に取り組んでいることを学んだ。</p> <p>4.グッズ材料の選定と試作 “間伐材の板切れ1枚で、ふるさとを元気にしよう” このような課題のもと、どんな材料をもとにするか。製作現場から出た廃材、不良品、また実際に製品にしている部材、また倉庫に眠っている使われない部材等、様々なサンプルを集めた。議論の結果、工場から出た不良品 (見た目はほとんど見分けがつかない) と、倉庫に眠っていたサイコロ上の部材を候補にすることにした。</p>



5.グッズの企画提案

材料が決まったところで、どんな目的でどんな製品をつくるか、そのデザインを企画し発表会を行うことにした。

木のパズル、占いサイコロ、お守り等

その製品を持つとどんないいことがあるか、誰に配るか、どんなデザインにするか等、各自が企画書を作った。そして木工所の社長さん、校長先生、教育委員会の方を前に、自分の企画をプレゼンした。



6.縦割り班を指導してグッズ製造

最終的には、ふるさと元気グッズ（チェーン付のお守り）を作ることに決定した。また絵や文字の消しゴムハンコのデザインは、新たに全校の子どもたちから募集して、みんなの意見を集めることにした。

全校の縦割り班を利用して、6年生が指導しながら1～6年生全員で製造する。そのためには、

- ・どのような工程で作るか。
- ・どんなことに気をつけて製造するか。

これらを話し合い6年生一人ひとりが指示できるようにした。

製造当日は、縦割り班ごとに集まり、全員で協力してグッズづくりを行った。



7.あいさつタッチの旅に出てグッズ配布

製造したふるさと元気グッズをどのように配布するか。

みんなで話し合った。

- ・観光客に配る。
- ・配りながら西粟倉村の良さをアピールする。
- ・同時に間伐の大切さ、西粟倉の百年の森林をアピールする。
- ・どのようにお客さんに接するか勉強して練習する。

さっそく村の観光施設でお土産を売る店長さんに学校に来てもらい、接客のポイントについてアドバイスをもらった。そしてどのように村をアピールするか、自分なりにまとめ、それを伝えるための練習を行った。

配布当日

知らない人に自分から声をかける。これは簡単ではない。なかなか声がかかれず、尻込みする子どももいたが、勇気を持って声をかけ間伐の大切さ百年の森林についてアピールし元気グッズを渡すことができた。



